

パビリオン自体は、ドイツ館と一体になっていると言う特徴は有るが、他に特筆する事はあまり無いような気がする。

内部の構成についても、見学者の自由に委ねられている事は良いが、全体的にはあまり面白みが無かった。

しかし「持続可能な開発」と言うフランス館のテーマは、イメージシアターで強烈に指し示していた。フランス館に行きシアターに入らなければ何の価値も無いであろう。今回の【愛・地球博】テーマである「自然の叡智」を強烈にあらわしている。

1辺18mの天井・壁・床全体に映し出される映像は、食料・労働・公害・自然破壊・ゴミ・エネルギーなどのテーマについてフランス独特のストレートでありながら情緒的で且つエスプリの効いた表現になっていた。

今、人として、個人として出来る事を「考え」「行動する」見つめ直すいい機会を得た。

個人として出来る事は小さな事だが、小さな事の集まりが地球の未来を左右するのでは・・・

建築設計者として、自然に優しく・地球に優しくとは一件相反した仕事をしているよう思えるが、意識し考えながら行動していけば、建築設計(建設行為)も未来の地球環境に寄与出来る。いやして行かなければいけないと思う。

